



"大切な労働者と家族の命を守るために"

全業種対象の労働災害防止大会

『名古屋・尾北労働災害防止大会』開催

去る2月18日、名北・名古屋南・名古屋東・名古屋西・一宮・瀬戸・津島・江南各労働基準協会はウインクあいち「大ホール」（愛知県産業労働センター 名古屋市中村区）において「令和3年度名古屋・尾北労働災害防止大会」を開催しました。本大会は、全業種を対象に労働災害防止やハラスメントによる健康障害の防止に向けた対策の一層の促進を図ることを目的に行われました。

当日は名古屋市内・尾北地域の事業主、安全衛生・労務人事担当者及び第一線監督者など133名が来場、また当日の様相を録画した映像を後日視聴するインターネット参加175名と併せて、308名が参加しました。

開会にあたり、当協会春日井支部長会社である愛知電機(株) 武藤宏之取締役管理本部副本部長兼人事部長が開会挨拶で「本日の大会がご出席者の皆様の企業にとりまして、自社の安全衛生活動を今一度見直していただく機会となり、今後の労働災害、パワハラを出さないための職場環境づくりの一助となることを祈念します」と述べました。

続いて、名古屋東労働基準監督署 近藤慎次郎署長が大会挨拶を行いました。近藤署長は「コロナ

感染症予防を理由に、安全衛生活動が低迷しているのではないかと危惧している。感染症予防はもちろん優先すべき大きな課題だが、労働災害防止と天秤にかけるものではなく、どちらも最優先に取り組むべきものである」と述べました。

次に、「危なさ向きあおう」と題し、名古屋東労働基準監督署 伊藤一弘安全衛生課長が安全講話を行いました。伊藤課長は、危なさを見つけるのではなく、調べることが大切であり、「危険源と人が交わることで危険状態が発生するという災害発生プロセスを踏まえて、論理的に危険状態を回避する手法を考えましょう」と説明がありました。

その後、「安全衛生の再構築」について、AIMSAFE労働安全衛生代表 椎野由裕労働安全衛生コンサルタント（中小企業診断士）が講演を行いました。椎野コンサルタントは「安全衛生管理のGame Change!」と題し、コロナ禍やハイテク化、政治・社会構造の変化に対応するためには、安全衛生管理体制を再構築する必要があると説きました。さらに、テレワークの指針やエイジフレンドリー、ストレスチェック等、さまざまな角度から安全衛生管理について解説を行いました。

引き続き行われた特別公演では、当協会 市之瀬高司専務理事・事務局長の脚本・演出によるパワーハラ防止劇『パワーハラを大事件にしないために』を上演しました。劇には劇中ナレーションを含め当協会職員14名が出演し、事業所内で発生したパワーハラスメント行為に適切な対応を行うことができず、会社が企業責任を問われる様子を演じました。また劇中では、フローリッシュ社労士事務所長新美智美公認心理師がパワーハラの定義をはじめ、各シーンにおける問題点や企業に必要な取り組みについて解説を行いました。

さいごに、津島労働基準協会 石井政春専務理事による閉会挨拶で大会は幕を閉じました。